

明治学院大学キリスト教研究所アジア神学セミナー  
(2018.10.15)

# 宣教師及び日本人教育者と 国際問題 —戦時下の日米関係を軸に—

辻 直人

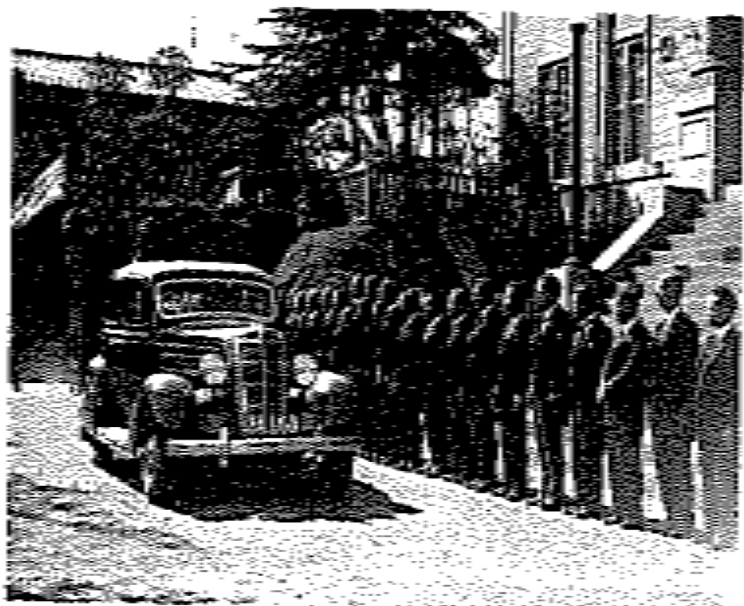


WILLIS CHURCH LAMOTT

(1893~1960)

- ・アメリカ長老教会宣教師
- ・明治学院高等学部教授  
(1923~1938)

- ・1935年12月  
「不敬罪」容疑で高輪警察署より取り調べを受ける



明治学院での奉戴式「過去六十有余年の歴史を有する我が明治学院が、初めて御真影御下賜の光栄に浴した昭和十三年十月二十六日は、我等にとり特に記念すべき一日でありました。伝達の儀は、十時十五分、文部大臣官房秘書課長によつて飯舘裡に行はれ、同時刻、学院に於いては、中学部教職員生徒一同、遙か宮城に向ひ、心からなる遙拝を行つたのであります。十時四十分学院帰着。各部教職員生徒一同は校門より大校庭まで整列、感激裡に奉迎申し上げました。」（一九三八年十一月二〇日「明治学院時報」第六七号より）

## 御真影奉戴式（1938年11月20日）

# 東亜科の設置 (1940年4月)

東亜科 学科課程及毎週授業時間数(認可申請中)

学科目	毎週時間数		
	一年	二年	三年
道徳	二	二	二
日本文化論義	二	二	二
及日本文化史	二	二	二
国語演習	二	二	二
敬語	二	二	二
第一外国語	二	二	二
第二外国語	二	二	二
合計	二二二二二二	二二二二二二	二二二二二二

学科目	毎週時間数		
	一年	二年	三年
第二外国語	四	四	四
大東亞史	二	二	二
世界史	二	二	二
大東亞地理	二	二	二
公共事情	二	二	二
心理学	二	二	二
合計	二二二二二二	二二二二二二	二二二二二二

学科目	毎週時間数		
	一年	二年	三年
哲学	二	二	二
教育学	二	二	二
憲法	二	二	二
法学	二	二	二
経済学	二	二	二
経済学	二	二	二
経済学	二	二	二
農業概論	二	二	二
工業概論	二	二	二
植民地政策	二	二	二
文化政策	二	二	二
文化政策	二	二	二
又八修練	二	二	二
定八修練	二	二	二
合計	二二二二二二	二二二二二二	二二二二二二



彦根高商門前に立てられた東亜科生徒募集の看板と東亜科の鷺山第三郎氏  
1940年3月



## ヘンリー・ボーベンカーク

- ▶ 三重・阿漕教会での送別会の様子

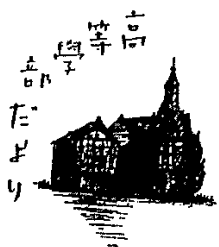


ハワード・ハナフォード

# 外国人教師は休講（1941年）

「外人教授は当分休講です」

——日米開戦前夜に帰国——



## 外人諸教授當分休講

教壇生活二十三年の  
ハナフオド教授等——

創立六十五年半世紀以上の歴史を閲した學院、その高等學部は、他の學部も同様、この昭和十六年九月十日の秋季授業始めに於て、始めて大きな變革を見た。それは教壇生活二十三年の長きにわたつたハナフオド教授を始めとして、スマイス教授、ミセス・ハナフオド

の三人、即ち現外人教師全部の授業が當分の間休止せられたことである。これは従來の、ルーベン教授の病氣歸國とか、デマーグ、タボーグ、オルトマン教授等の任意歸國とは異り時局の推移に鑑みて適當なる時期の到來する迄授業を速應願つたものである。

事情止むなく事ここに至つたが高等學部ことに英文科に及ぼす影響は相當に大きく、最上級生のごときは一週六時間の主要課目を失ふに至つた。これは十月の第二期始めと共に日本人によつて補給され授業時数の減少は避ける筈であるが、留學ことにブラクチャルな方面で優秀であつただけに、今後の特色上慎重に考慮すべき問題となるわけである。

「明治學院時報」一九四一年九月三〇日付



## 湯浅八郎（1890～1981）

- ▶ ・京都帝国大学教授（1924～1934）
- ▶ ・同志社総長（1935～1937、1947～1950）
- ▶ →戦前いずれにおいても、軍部や右派と対立
  
- ▶ ・キリスト教に基づく国際主義の体現者
- ▶ 留学（イリノイ大学）での経験
- ▶ （1916～1921）
- ▶ アメリカ講演旅行（1939～1946）
  
- ▶ ・日米戦時下もアメリカに滞在

visiting Amherst, Deerfield Academy, Northfield Seminary and  
Dartmouth and I am now in the Mid-West making a round  
of the congregational institutions beginning with Oberlin. I will  
go from here to Carlton, (Miss.) and Olivet (Mich.) before  
returning to Boston. I'm now in the hand of the American  
Board. Dr. Goodsell of the A.B.C.F.M. has a plan which,  
if materializes, will make it possible for me to keep on  
doing the kind of work I am now doing for some months to come.  
Dr. Douglas Horton also wishes to make use of my time. So  
it seems that I will probably be staying in this country  
for another 12 months or so. It is so difficult for me  
now to go back to science and the field of Christian  
internationalism seems to offer opportunities to make  
myself useful. It is an adventure but it is an  
adventure with God. I am glad to cooperate in this pioneering  
enterprise on the part of the Congregational Church. The plan  
is still in the stage of formulation but I felt that I  
must tell you this much at least.

Thanking you for your kind concern and with

Manchiro

Japan

## イリノイ大学YMCA総 主事ウィルソン宛書簡

- ▶ ・1939年5月9日付
- ▶ 「今更科学研究の世界に戻るの  
のは難しく、キリスト教国際  
主義の分野でなら、私自身の  
役に立てる機会があるように  
思えます」



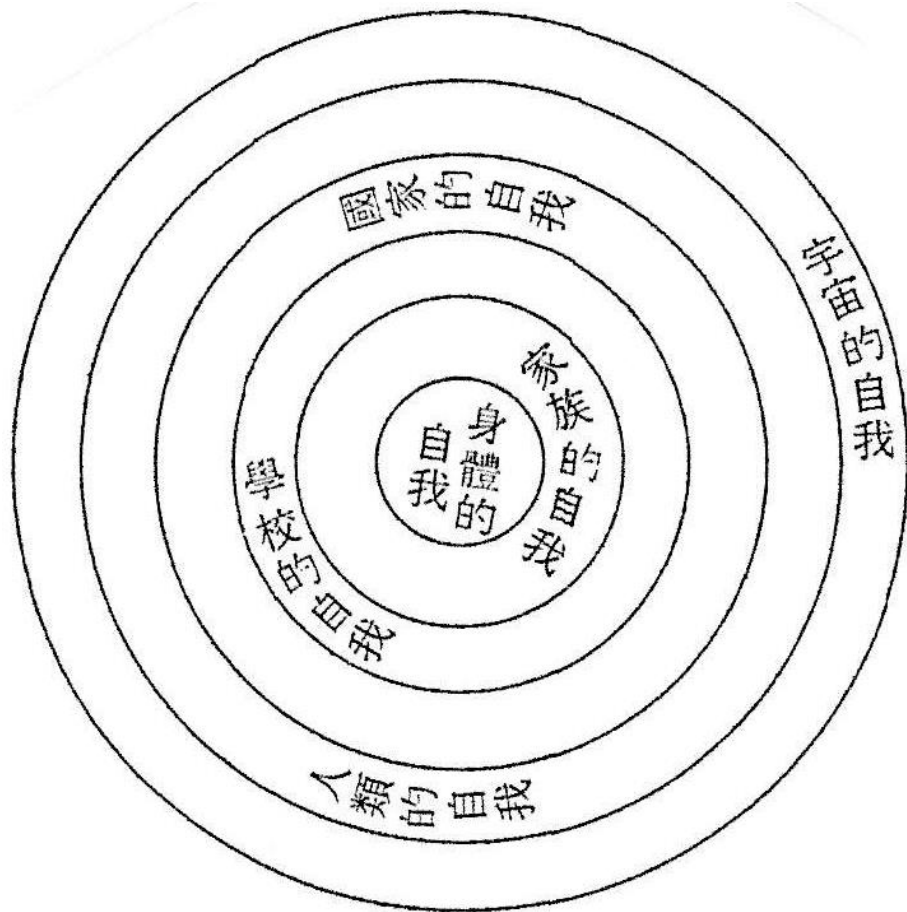
## 田川大吉郎（1869～1947）

- ▶ ・ジャーナリスト、衆議院議員
- ▶ 明治学院総理・学院長（1925～1935）
- ▶ ・基督教教育同盟会理事長（1927～1936）
- ▶ ・日本基督教連盟常議員
  
- ▶ ・中国と親和的
- ▶ ・上海に国際大学を作りたい、と主張
- ▶ 「世界の親善と平和を希望する者は、これが設立のためつとめねばならない」（田川『基督教の再生』）
- ▶ ・日本のキリスト教学校を開放して、中国からの留学生を歓迎すべき」（田川『基督教学校を開放して中華留学生を歓迎するの議』）
  
- ▶ ・戦中は上海に「亡命」、帰国後は都知事選や衆議院選に出馬



## 成瀬仁蔵（1858～1919）

- ▶ 日本女子大学創設者（1901年） 初代学長
- ▶ 帰一協会発案者の1人
- ▶ 元牧師、梅花女学校教師・校長
- ▶ アメリカ留学経験者（東海岸）
- ▶ 新史料発見（シカゴ大学で）  
→E. バートン教授との交流



成瀬仁蔵

「我と云ふものゝ研究」

- ▶ 1909年11月に発表
- ▶ 「婦人が自分の目的を自覚する事」
- ▶ ・「大目的、即ち人生終極の目的は、個人の目的も、国家社会の目的も、宇宙の目的も調和統一したものである。個人の目的も、宇宙の目的も、決して矛盾するものではない。必ず合致する所があるのであります。此処に全体の調和があり、我々の生活の価値がある」